

WORLD THOROUGHBRED RANKINGS

The official listing of the world's best racehorses
(covering the period 1st January to 1st July 2012)

ロイヤルアスコット開催のクイーンアン S(G1)を 11 馬身差で圧勝したフランケル【140】が世界トップの座を揺ぎないものとした。

World Thoroughbred Rankings			
The Leading Horses			
Rank	Horse	Rating	Trained
1	Frankel (GB)	140	GB
2	Black Caviar (AUS)	130	AUS
3	Cirrus Des Aigles (FR)	128	FR
4	I'll Have Another (USA)	126	USA
4	Monterosso (GB)	126	UAE
6	Bodemeister (USA)	125	USA
6	Cityscape (GB)	125	GB
6	Excelebration (IRE)	125	IRE
6	Hay List (AUS)	125	AUS
6	Orfevre (JPN)	125	JPN
6	So You Think (NZ)	125	IRE

11 戦して無敗の同馬は、昨年 7 月にサセックス S(G1)を 5 馬身差で完勝して以来、トップの座を維持してきた。今回新たに 140 ポンドの評価を得た同馬であるが、これは 2004 年のワールドサラブレッドランキング創設以来、最高の評価である。

加えて、これは 1977 年に国際レーティングが公式に発表されて以来、**ダンシングブレーヴ【141】**に次いで 2 番目に高い評価である。両馬ともハーリッド・アブドゥラ殿下の所有馬である。

ブラックキャビア【130】は 2011 年序盤にはランキングのトップで、5 月と 6 月発表分ではフランケルと並んで首位であった。その後同馬より上にランキングされているのはフランケルのみである。ダイヤモンドジュビリー S(G1)ではベストの評価には及ばなかったが、オーストラリア以外で初勝利を上げると共に、無敗記録を 22 まで更新した。

その他、スプリント部門では香港からの遠征馬リトルブリッジ【120】がキングズスタンド(G1)を快勝し、自身初の国際グループレース勝ちを収めた。

アスコット開催の中・長距離部門ではソーユーシンク【125】がカールトンハウス【119】を降してプリンスオブウェールズS(G1)を制した。また成長著しいシームーン【123】がハードウィックS(G2)を制しここまでのベストの評価を得ている。

昨年のブリーダーズカップターフ(G1)でシームーンを降しているセントニコラスアビー【124】はコロネーションカップ(G1)を4 1/2馬身差で制し、健在振りをアピールした。また、キャメロット【124】は英ダービー(G1)を完勝し、ヨーロッパの3歳部門トップの地位を確立した。同馬は不良馬場の愛ダービー(G1)も制し馬場適性の高さを示した。英2000ギニー(G1)も制している同馬には1970年のニジンスキー以来の英3冠制覇の期待がかかる。

ヨーロッパの3歳牝馬部門トップは仏1000ギニー馬ビューティーパーラー【118】をディアヌ賞(仏オークス)(G1)で降したヴァリラ【120】である。

日本では昨年の3冠馬オルフェーヴル【125】が、クイーンエリザベスII世カップ優勝馬ルーラーシップ【123】を宝塚記念(G1)で降し、再び同国でのトップに立った。

北米ではゲームオンデュード【122】がカリフォルニアニアンS(G2)を7 1/4馬身差で快勝している。また、アクラメーション【121】がチャールズウィットティンガムメモリアル(G1)を3連覇し、米芝部門においてここまでで最も高い評価を得ている。

また昨年のブリーダーズカップレディーズクラシックの勝馬ロイヤルデルタ【119】はフルールドリスH(G2)を8馬身差で圧勝、昨年同様の評価を得た。

ロンザグリーク【120】はスティーヴンフォスターH(G1)でワイズダン【124】とネットスマインシャフト【119】を降した。